

## 7・12「学費の公私間格差・自治体間格差是正を考える院内集会」その1 全国から結集して「私学の無償化」の声を上げる

7月12日(金)、東京永田町の参議院議員会館「講堂」を会場に、「7・12学費の公私間格差・自治体間格差是正を考える院内集会」が開催されました。全国から165人の私学父母・高校生・教職員が参加し、会場はほぼ満席に。国会議員は与野党すべての主要政党・会派から本人13人、代理71人、計84人が参加してください、高校生や父母の訴えに耳を傾け、それぞれに「私学の無償化」の意義や実現への決意を述べられました。全国から父母・高校生の「生の声」を集めた26,123枚の要請ハガキ・個人署名と76枚の団体署名を積み上げ、集会后に文科省への要請の場で提出しました。

### 「私学の無償化を今こそみんなで」

集会の冒頭、全国私学助成をすすめる会共同代表の北澤由美子さん(富山県の私学を育てる会父母代表)があいさつに立ち、「経済的負担がなくなり、子どもにとっての学びが制約なく、条件もなく、存分に学べるものであってほしいと願います」と述べ、半月後の全私研と秋の全国父母懇交流集会福井大会への参加を呼びかけました。つづいて山口直之共同代表(全国私教連中央執行委員長)は、集会への基調報告として、2023年度末の独自調査で「経済的理由による高校中退が前年比で1.8倍に増えた。授業料以外の費用に補助がない。これでは「無償」とは言えない」と現状を厳しく問い質し、「年収910万円未満世帯まで授業料無償化するのは約1100億円できる」と独自の試算を紹介し、「国の責任で私学の無償化を、と今こそみんなで声を上げましょう」と力強く訴えました。



国会議員のあいさつを挟んで、高校生が国会議員を前に、自分の言葉で訴えました。「私立は余裕のある家が行くところというイメージで語られるが、それは一部のみ。学費の無償化は必要だ」「制度の対象外の家も学費負担は大変。自分の家も、自分が私学に進学したため母がパートで働き始めた。どの生徒にとっても対等にしてほしい」(東京・大東学園高校)



上:旭丘高校、右:大東学園高校の生徒たちによる発言



「川崎に住んでいる友だちが「多摩川の向こうに引っ越すか」と悩んでいた。すぐには変わらないかもしれないが、声を上げていくことは必要」(神奈川・旭丘高校)

つづいて愛知、兵庫、埼玉、東京、北海道、神奈川の父母と佐賀、長野の教職員がフロアから発言。私フェスや街頭署名など全国各地の多彩なとりくみを紹介し、それぞれに私学助成署名を広げる決意を述べました。

集会後、参加者が分担して、6省庁5政党への中央要請行動にとりくみました。左の写真は埼玉、富山、愛知の父母と旭丘高校の生徒2名による、今枝宗一郎文部科学副大臣への要請。愛知私学の出身でもある今枝副大臣は、一人ひとりの言葉に真剣に耳を傾け、声をしっかり受け止めてくださいました。



旭丘高校生徒から要請文を受け取る今枝宗一郎文科副大臣(左から4人目)

### 公私共同の教育全国署名スタート集会

中央要請行動が終わると、星陵会館に集まり、14:30から公立と共同の教育全国署名スタート集会に参加しました。集会の参加は全体で195人、このうち私学関係は高校生を含めて116人でした。全国私学助成をすすめる会事務局長の葛巻真希雄さん(全国私教連書記長)が基調報告し、埼玉・自由の森学園に子どもが通う小坂昌代さんが特別報告で、子育ての苦労と私学の大切さを切々と語りました。閉会あいさつで北澤由美子共同代表は「私たちの声が一歩一歩確実に制度を変えていっています。教育条件の整備を国が進めるよう働きかけていく。今年も暑い夏にいたしましょう」と呼びかけ、長い一日を締めくくりました。

国会議員一覧は「その2」に掲載します。

